

岩淵町まちづくり協議会令和 7 年度 第 16 回定例会 議事録

日 時:令和 8 年 2 月 5 日(土) 19:00~21:00

場 所:岩淵小学校 体育館

出席者:11 名

事務局 北区防災まちづくり担当部防災まちづくり担当課 4 名(長久保、齋藤、杉尾、森岡)
活動支援コンサルタント 4 名(上坂、高木、浅川)

1. 協議内容

(1)協賛金収支報告

会計担当より協賛金の収支について報告

■意見交換

会計担当:協賛金については、イベント開催前に企業からいただくパターンと、開催後にイベント報告書を閲覧していただき、イベントの趣旨・目的に賛同できる企業からいただくパターンで対応した。後日入金予定の企業を含め、計 18 企業からそれぞれ1万円ずつの計 18 万円が協賛金として集まる予定である。

参加者:収入の部の立替金返金とは何か。

会計担当:支出の部①装飾費・消耗品費(立替金)を指し、イベント全体の装飾に用いている。事務局が負担することを想定している。

事務局:事務局が負担するということで決定しているが、現在は協議会の方が立て替えている状況で、事務局からの支払いは済んでいない。立替金の支払いには領収書と請求書が必要になるが、すべて揃っている認識で問題ないか。また協賛金全額が納金されるのはいつ頃か。

会計担当:問題ない。納金及び決算は3月中旬頃を予定している。

参加者:協賛金は振込と現金、どちらで受理したのか。

会計担当:振込と現金、どちらのパターンもある。現金で受理した場合は、協議会の口座へ入れている。

事務局:制作デザイン費は具体的に何を指すのか。

会計担当:クイズラリー用紙およびそれに係るチラシ制作の人手が不足していたため、デザイナーを派遣する際に発生した費用である。また、役者費や登壇費は支払いが確定しているものではなく、決算してからの支払いを考えている。

事務局:役者費はかっぱ役が当日4名いたため、1人あたり1万円で計4万円という計算か。

参加者:町会や協議会メンバー以外の協力者は4名以上いたが、有償対応か。

会計担当:役者費はかっぱ役の方のみに発生している。それ以外の協力者は無償ボランティアである。

会計担当:撮影費はプロのカメラマンを派遣する際に発生した費用となっている。撮影していただいた写真は、グーグルフォトなどを用いて事務局に共有する。

参加者:その写真は協賛企業にも共有するのか。

会計担当:協賛企業にはイベントの報告書を別途共有しているため、写真は共有しない予定である。

事務局:協賛金をいただくにあたり、企業から協賛条件の確認書や同意書、申込書は受理したのか。

会計担当:特に書類は受理していない。協賛金の入金をもって、開催したイベントに対しての同意とみなしている。

事務局:雑費、通信費はそれぞれ何を指すか。

会計担当:雑費はかっぱの衣装代、通信費は協賛金対応に用いたメールアドレスのドメイン費用である。

事務局:令和7年度の決算報告について、次年度の役員改選の協議・決議と合わせて4月～6月頃に行いたいため、今回のイベントの会計処理は、年度内(3月中)には完了させたいと考えている。そのため、詳細な会計報告のまとめを早急に提出していただきたい。

会計担当:承知した。まとめ次第、共有する。

事務局:次年度以降も協賛金の募集を継続していくかどうか、皆様からご意見をいただきたい。

参加者:次年度以降は協賛金には頼らず、第1回、2回の時のように、地元主体でのイベント運営が望ましいと思う。イベントの本質はハード防災である密集事業の周知と、ソフト防災として災害時に地域の繋がりを強めることにある。当日の運営では他地域から来た無償および有償ボランティアを用いていたが、これではイベントの本質と乖離してしまう。この意見は自治会の総意である。

会計担当:協賛金の募集は、収支がプラスになった場合、次年度に自治会が使用する消耗品などへ還元ができるため、継続しても良いと思う。今年度は協議会と事務局で各項目の決定権者が直前まで曖昧であったため、その点を事前に明らかにするべきであった。

参加者:魅力的なイベントにするために費用が必要なことは理解できるが、今後は密集事業の周知等といった本質を前提に置いての企画検討をすべきである。

次年度は、企画検討時にイベントへ使える予算を事務局側から事前に提示した方がよい。その方が後々費用面の課題が発生することもなく、企画検討もスムーズになると思う。また、基本的には予算の範囲内でイベントの企画検討を行うべきだと思う。

参加者:協賛金の取りまとめ等に事務局の労力が割かれ、密集事業の進捗に影響することは避けたい。また協議会案の企画決定に時間を要したことで、準備会の回数が前年度よりも非常に多く開催され、中だるみしてしまったことも踏まえると、企画検討開始等の適切なハンドリングを求める。

参加者:協賛金の募集を継続するかどうかは、次年度の企画検討時に議論するべきではないか。現時点では判断は難しいと思う。

参加者:イベントとしては年1回だが、北区の方で道路拡幅や建替えを促進するための取組を行っているため、それらの予算を踏まえてイベントの予算が決まると思う。イベントは基本的に予算内で実施すればよいので、協賛金を集める必要性は薄いと感じている。

参加者:現時点で協賛金の募集を継続するべきか判断はつかないが、協議会の口座を持つこと自体は良いと思う。

参加者:決められた予算の中で動ければ、資金を別途充当する必要性もないので無理に口座を持つ必要はないのではないかな。

事務局:今年度の反省を踏まえ、次年度からは予め予算を示し、その中で何ができるかを検討できればと思う。

参加者:次年度のイベント予算はいつ頃決定するのか。

事務局:3月頃には決定するため、次年度の総会・役員会で提示することができる。

事務局:協賛金募集の継続の是非は、次年度の総会・役員会で議論したい。また、次年度は基本的に
予算内でイベントの運営を行う方向になっているが、今年度余った協賛金はどうするかについて
ご意見をいただきたい。

参加者:次年度に一旦繰り越す形で良いと思う。

事務局:協議会の方にもかっぱ役をやっていただいた方がおり、それらの方には謝金が支払われていない
ようである。残金は少額であるため、そちらに充当してはどうか。

参加者:良い考えと思う。

会計担当:いただいた意見をふまえて、再度収支報告を実施する。

(2)イベントの振り返り

■意見交換

参加者:当日は八雲神社で外部ボランティアとしてけん玉のブースのお手伝いをしていたが、午後からキッチンカーの利用客が少ない印象を受けた。また、イベントには乳幼児～小学生だけでなく、中学生～大学生の年代の方も参加してほしいと思った。

参加者:午前中だけの参加だったが、親子連れがたくさんいて楽しかった。他地区で災害ボランティアを行った際も、災害時には大人も子どもも関係なく協力し合わなければならないと感じたため、中学生～大学生にも積極的にイベントに参加してもらいたいと思った。

参加者:イベント自体は全体を通して楽しかったが、大人向けのアンケートパネルは回答する際にしゃがみ込まなくても良いよう、次年度は椅子の上に置く等工夫してほしい。

参加者:アンケートには、イベントを介して周知した密集事業等の内容を理解できたかどうかを問う内容が必要ではないか。イベントの趣旨・目的を考えると、楽しただけで終わってしまうのは良くないと思う。

参加者:5年前に岩淵町へ引っ越してきた。消防団のイベントと重複していたことから、当日のイベントには参加できなかった。若い人が所属する団体を巻き込むのであれば、イベントの開催日は重ならないようにした方が良いと思った。

参加者:イベント全体の連絡体制の検討が不十分であったため、当日の責任者が誰であるか曖昧であったと感じている。また、イベントの内容検討の際、最終決定の場を明確にしなかったが故に、企画決定までに時間を要してしまったのではないかと。費用についても、超過分を協議会の企画で調整するのではなく、事務局負担分から減じる部分がないかを含めて調整するべきであったと思う。自治会とは別に、50歳以下等の年齢制限を設けて、イベント実施のための新組織を立ち上げてもいいのではないかと。

参加者:午後からの参加であったが、準備を通じて、情報不足で一部の人に過剰な負担がかかっているように感じた。誰のための、何のためのイベントなのかを今一度考え、次年度以降は町内の人の顔が見えるイベントになれば良いと思う。

参加者:当日は風邪により参加できなかったが、周囲の子どもらにイベントの認知度を確認すると、知っている子が少なかった。近隣の保育園・学校等にポスターやチラシを配布したと伺ったが、周知方法は再検討の余地があると思う。また、岩淵町が水害の危険性が高いエリアであることをもう少し

周知できれば良いと思った。

参加者：イベント自体が未就学児等の子ども向けのお祭りになりつつある現状は好ましくない。災害時に実際に働くのは中学生程度から大人といった、ある程度年齢を重ねた層である。いざとなった時に協力し合える顔見知りの関係を築くこともイベントの趣旨・目的の1つであるため、中学生程度～大人向けのコンテンツももう少し充実させてほしいと思った。

参加者：準備において、やりたいことと力量のバランスがとれていない印象があった。かっぱを演じることは構わないが、もう少し準備を分担してほしいと思った。

参加者：子どもと大人が一緒に活動することが重要であるが、例えば警察や消防の方との交流型トークイベントなどができると、大人がトークを聞いて子どもにもその内容を周知して繋がっていくと思った。過去の大震災に従事した公務員や医療従事者等から、体験談や取るべき行動のレクチャー等を学習できるトークイベントが望ましい。

《その他》

■意見交換

事務局：次年度の総会・役員会、及び第17回定例会は4月～6月頃に行う。そこでは、次年度のイベント予算と今年度の決算報告、協賛金に関する議論をする想定である。

会計担当：協議会へ参加できなかった人が意見交換の内容を確認できるよう、協議会で使用した資料と議事録を北区ホームページで公開してほしい。



当日の様子

以上